

### 健康食品摂取後の実態調査～評価情報としての有用性の検討～

ホーム調剤薬局 / 佐藤 尚美 佐久間 玲子 佐藤 妙子 高橋 郁乃 山口 久美子  
伊勢 由香里 田沢 涼子 倉田 沙央里 鈴木 麻結 大石美也

【目的】健康食品は購入から摂取、評価までが消費者に委ねられており、その情報のほとんどは販売者側から提供されている為、消費者が接する情報はベネフィットにかたよったものといえる。これに対し、効果や危険性については臨床データを集積する動きが若干起こっているに過ぎず、健康食品に対する薬剤師としての見解を求められることがあっても、患者が得られる以上の情報を我々薬剤師も持たないのが現状である。そこで、このような健康食品の曖昧さを打破する方法を模索するために、当薬局の来局者に健康食品摂取後の実態調査を行い、安全性や効果の判定に有用な情報が得られるかどうかを検討した。

【対象及び方法】平成17年5月1日～5月31日の期間の来局者で、健康食品を摂取しているまたは摂取したことのある患者を対象に年齢、摂取品目、摂取目的、摂取頻度、摂取期間、費用、主観的な効果の印象、主観的な問題症状について紙面によるアンケートを行い、「毎日指示通りに摂取している」と回答した283人、品目別582件について解析した。

【結果】摂取品目は黒酢が81件、アガリクス78件、以下プロポリス、グルコサミンと続く結果で全43品目であった。使用目的は「治療の補助」が214件と多かったが、「病気の予防」、「健康維持」に大きな差は見られなかった。主観的な効果の印象として「効果あり」30.1%、「飲まないよりいい」30.2%、「変わらない」37.8%、「悪くなった」1.9%であった。「効果あり」と「飲まないよりいい」を併せたものを有効とすると有効率は60%と高かった。品目別有効率ではコンドロイチンが65.2%、グルコサミンが51.3%と高く、摂取者が多い割にアガリクスは14.1%と低かった。摂取目的別有効率は「治療の補助」が45.7%と有意に高かった。年代や目的別で費用に差はなかった。また、費用別有効率にも差は見られなかった。摂取期間別有効率で「6ヶ月」と「1年以上」で効果の判定に逆転が見られたことから半年から1年の継続で効果の判定を行っていることが推察された。

【まとめと考察】1. 多種多様な健康食品が摂取されていたことから、多くの商品が流通していることが推察され、解析には多数のデータが必要であるといえる。2. 何らかの体調の変化から効果の判定が行われていることが伺われ、今後さらに情報収集を行う意義があることが示唆された。3. 品目別に摂取目的に違いがあり、主観的な効果に差がみられたことから、期待度によって有効率に差が出る可能性があり、効果判定を分析する際、摂取目的という影響因子を考慮すべきであると考えられる。4. 1年以上摂取した人を対象に調査をすることで、さらにデータの信頼性は高まるといえる。5. 患者が長期にわたり定期的に来局しうること、さらには薬歴簿によりイベントの集積が可能なことから、健康食品の曖昧さを明確にするために保険薬局の「集積・解析機能」と薬剤師の「職能」を生かして摂取後の追跡調査を行うことは有用であると考えられる。

